

小児・AYA 世代のがんの 長期フォローアップ体制整備事業



今後の方向性

- 小児がん対策としては、小児がん拠点病院あるいはそのブロック単位でのLCAS研修体制を確立する。
 - この研修の修了証を学会から発行
 - 費用はLCAS事業費、終了後は拠点病院の運用費
- LCASの座学はE-ラーニングとして日本小児血液・がん学会が提供し、毎年2～3コマを更新する。
- LCASの指導を行うファシリテーターの育成やそのマニュアル作成は学会と小児がん中央機関が行う。
- 拠点病院またはブロックごとのLCASにおいては、地域ごとの課題を明らかにし、中央機関と連携して対応し、その情報を全国と共有する。
- 拠点病院またはブロックから、長期フォローアップのデータを中央機関に集約する。

日本小児血液・がん学会

小児がん中央機関

※1：学会は、これまでのLCAS研修会受講生を対象に、本研修のファシリテーターのマニュアル等を提供する

LCASで行っていた座学は学会が提供（年に2-3コマを毎年更新）

長期フォローアップ体制の現状報告
LCAS受講人数の報告
ブロックごとのフォローアップの課題の集約

拠点病院におけるLCAS運営体制構築※1

小児がん拠点病院（地域ブロック）

E-Learning

LCAS※2

※2：拠点病院（ブロック単位）でのLCAS開催を義務づける
年に少なくとも1回。30-40名/1回
開催費用は、LCAS事業資金と各拠点病院の資金で運用
拠点病院は連携病院の長期フォローアップ体制に地域に則したLCASを提供する（要件とすることも可）

年間約150~200人がLCAS受講
→ E-Learningの維持と更新が可能

LCAS受講希望者にe-Learning受講証あるいは修了証を発行（1万円？：学会収入）

小児・AYAがん拠点および連携病院等の医療従事者

E-Learning受講のみは無料

今年度のLCASに（残り2回に拠点病院からファシリ候補に参加してもらう

令和2年度の小児・AYA世代のがんの 長期フォローアップ体制整備事業(LCAS)研修会

- 小児がん拠点病院あるいはブロック単位でのLCASの運用を開始する。(2-5回)
 - 運用は、拠点病院あるいはブロック
 - 開催費用はLCAS事業費から支出
 - ファシリテーターは経験者を派遣
 - この研修の修了証を日本小児・血液がん学会から発行
- 座学はE-ラーニングとして学会が提供
 - 年間2~3コマを更新
- LCASアドバンス研修会の開催(1回): 中央機関
 - LCASを一度受講した経験者が参加
 - 拠点/ブロックでのLCAS運用の課題や問題点の議論
 - ファシリテーターの育成や研修ガイドライン作成

小児・AYA世代のがんの 長期フォローアップ体制整備事業(LCAS) 研修会の課題

- 拠点病院あるいはブロック単位の研修を厚労省として正式に認めてもらう体制
- LCASを運用する事務局と人員
 - 学会が雇用してきたが、今後は中央機関が好ましい
 - E-learningのコンテンツの更新
 - 資料作成、マニュアル、ガイドライン作成
- AYA世代の長期フォローアップ研修在り方
 - 成人科との連携
 - 成人がんの学会との連携
 - 研修を受講する対象を拡大
 - ファシリテーターの育成(AYA世代がん)
- 長期フォローアップ診療の保険点数加算について
 - 関係各所に継続して働きかける